

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 3月16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070703196		
法人名	ハンドツゥハートネットワーク株式会社		
事業所名	グループホーム愛 八幡		
所在地 (電話番号)	〒806-0047 福岡県北九州市八幡西区鷹の巣1丁目7番7号 (電話)093-622-8098		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成22年3月11日	評価確定日	平成22年3月23日

## 【情報提供票より】(平成22年2月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人	非常勤 0 人 常勤換算 14 人

### (2) 建物概要

建物形態	併設型	改築 5年目
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	6階建ての	2階 ~ 3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成22年2月25日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	・合屋医院・萩原中央病院・若戸病院・医療法人協和会がもうディクリニック
---------	-------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北九州市の住み慣れた地域で、早くから在宅生活の支援を始めた歴史を現在も引き継ぎ、「24時間365日」の支援体制を掲げ、商業ビル街の一角の6階建ビルに、複合型福祉施設併設の、2ユニット、グループホーム愛八幡がある。ホームのリビングや居室から見る街の景色は、変化に富み、利用者や来訪者を退屈させないものがある。ホーム長、管理者、職員は「あなたの笑顔が私の笑顔」という理念を理解し、利用者や家族に対して、穏やかで、優しさや安心を提供している。また、「終りの棲家」として、常勤看護師と医療機関による連携で、いき届いた介護支援が行われ、ターミナルケアを実践している。地域の夏祭り、神幸祭、近隣パトロール、スポーツイベントには、準備段階から職員が関わり、利用者と一緒に参加したり、地区民生委員の会議に参加し、グループホームを良く理解してもらい、地域との交流を少しずつ図っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果は、評価の意義の理解と活用 運営に関する家族等意見の反映 災害対策の3件であったが、は夜間帯の避難訓練や地域住民や家族参加の訓練を実施し、非常食の備蓄も始めている。 とは改善中で、引き続き今後の課題として取り組むことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員に声をかけて、作成に協力要請しているが、協力者が少ない。管理者は職員に評価の意義を理解してもらい、新しい発見や見えなかった部分に気づき、目標や問題点を探し、改善に向けて努力していくことが望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は、5階の小規模多機能型ホームと、協働で開催し、家族、地域代表、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者が参加し、ホームの現状、行事、問題点等を報告し、参加者からは、ビルにおける避難訓練や介護サービスに関する質問等、活発な意見が出され、有意義な会議としての記録が整理されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見箱、苦情対応窓口などを設置しているが、家族の意見はほとんどない。管理者と職員は、家族の気持ちを理解し、出来るだけ家族と話し合える時間をつくり、意見、要望、心配事等を聴き、全員で話し合い、ホーム運営に反映出来るように努力している。また、法人本部とも、相談し、解決に向けて努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グループホームが、商業地のビルの中にあり、近所付き合いが難しい面もあるが、地域の高齢化に向けたホームとしての協力や、相談等を通じた交流や、地域行事の準備会から参加したり、町内パトロールや夏祭り、神幸祭、スポーツイベント等に利用者や職員が参加し、少しずつ、地域住民との連携も図られている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あなたの笑顔がわたしの笑顔」という親しみやすい理念には、利用者がその人らしく暮らし続けるために、人権と尊厳に配慮したサービスを提供したい思いが込められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員のネームプレートの裏面には、法人の理念と共に事業所独自の理念が明記されており、職員自らが明るく笑顔であることをモットーに、常々意識しながら介護現場での実践に反映させている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや、神社の祭りには準備段階から職員が関わり、利用者も一緒に行事に参加し楽しんでいる。また、近隣パトロールやスポーツイベントにも男性職員が率先して参加し、地域との交流を深めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議の場で協議し、評価の意義と評価結果の周知に努めているが、職員からの意見が少なく、自己評価は主に管理者が取りまとめている。		全職員参加で自己評価を行い実践状況を振り返る方法として、会議の効果的運用や、自己評価表の各パート毎の割り当て等の工夫が望まれる。また、評価結果を職員間で回覧し、目標に向けた改善の取り組みが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、民生委員、地域包括支援センター、家族、時には町内会長をメンバーとして、事業所活動状況や利用者の状況、外部評価について説明し助言を得ている。また、この機会を活用し、避難訓練や介護食の試食会等も行っており、充実した内容となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを定期的に訪問しホーム便りを渡し、地域の状況や事業所の状況などの情報交換を行ったり、地域包括支援センターから、質問を受ける等、連携ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や虐待に関する研修に参加し、職員に伝達講習を行っている。権利擁護や成年後見制度の必要な場合にはセンタースタッフと連絡をとり、家族や親族へのアプローチを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に、「ホームだより」を発行し、利用者本人の現況報告を、家族の来訪時や、郵送で行っている。また随時、電話で、健康管理に関してのアドバイスや病院受診の報告をしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議の場を活用して、家族の意見や要望を拝聴する雰囲気づくりに努力しているが、本音での意見・要望は少ない。		同じ悩みを持つ家族間の「告白・語らいの場」として、家族交流会などの設立支援が望まれる。また、それによる意見や要望がホーム運営に反映されることを期待する。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や異動が少なく、病気で長期休職者の発生時には、リリーフ体制が可能であるため、利用者へのダメージは見られない。		
11	19	人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集は、ハローワークや社協を通じて行っており、性別・年齢の制限は設けていない。職員が研修や社会参加ができるよう勤務ローテーションに配慮し、職員の希望休暇は、ほぼ全面的に受け入れている。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる	法人本部による人権啓発、成年後見人制度の研修が確立できており、参加者の伝達講習もなされている。ホームの入り口にはノーマライゼーションの理念が掲示されている。		
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	画一的ではなく、職種・職能に対応した内外の研修計画が立案されており、職員は月に1回は研修参加の機会を確保できている。法人本部ではテーマを決め、各専門講師による定期的研修を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会に加入し、地域ネットワークを構築している。法人で実施する研修会には、加入メンバーにも参加をお誘いをしたり、合同の研修会の実施や場所の提供もを行っている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に短時間のホーム体験や、自宅訪問による職員との馴染の関係作りから始め、利用者や家族が、安心して利用できるよう、段階的な支援の工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共有の時間・場所で過ごしながら寄り添う介護を提供し、利用者の得意分野を發揮してもらい、人生の先輩から学ぶ場面をセッティングしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面接時に本人と家族の思いや意向を汲み取り、意思表示の困難な場合は、生活の様子や表情を観察しながら本人の視点に立って検討をしている。スタッフの語った「利用者のひとりごと」を聞き逃さないように心掛け、その場で記録するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成に当たっては、本人・家族や関係者の希望、および職員の意見を反映させながら利用者本位の検討を行っている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直し時に再度本人の状態を確認し、担当者会議で今後の対応を検討している。状態変化が生じた場合にはその都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師が常勤しており、病気やケガの対応、病院受診の同行および24時間365日の医療連携体制ができています。花見や名所へのドライブ、夏祭り・山笠見物、紅葉狩り等の外出支援をしている。5階のナーシングケア多機能ホームがあり、運営推進会議を共催し、相互の協力が出来ている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医、および協力医療機関の医師と情報を共有し、医療と看護・介護の連携を築きながら、利用者の健康管理に努めている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	相談・契約・入居の時点より、重度化した場合や終末期のあり方についての話し合いを行い、家族・かかりつけ医と対応方針の共有化を図っている。職員は、看取りの指針を周知しており、看取りの事例がある。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳と人権に配慮したコミュニケーションスキルについて、職員間での学習が出来ており、利用者に対する対応が丁寧である。記録物等の個人情報の管理は徹底されている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、利用者の希望を尋ねたり、相談しながら、本人の趣味などに対応出来るような環境づくりを心掛けている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は、配膳や下膳を一緒に出来る様に心掛けており、食事は職員と利用者が同じテーブルで会話をしながら楽しんでいる。利用者の体調や様子を見ながら、近くのスーパーに食材の買出しに出掛ける事もある。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している	週に3回の入浴日を設定しているが、利用者の希望に沿って、その都度柔軟に対応している。入浴拒否者には、気長に説得している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の職歴や生活歴を考慮し、自然な形で役割が持てる様な場面を作っている。行事の際の毛筆書写や、金魚の餌やり、観葉植物の水やり、洗濯物干し・たたみ、配膳・下膳等々、得意分野を発揮できる体制が出来ている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、買い物や公園までの散歩等の外出支援を行っているが、利用者の身体能力低下に伴い、全員で出かけることが、難しくなってきた。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践については法人を挙げて取り組んでおり、鍵をかけないケアについても全職員に周知できている。ドアは施錠せず、利用者が自由にホーム内を行き来できる様にしている。不穏症状が著明な利用者に対しては、職員が付き添う様に努めている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下、近隣住民の参加協力も得て年2回の消防防災訓練を実施している。また夜間を想定した自衛の避難訓練も実施している。非常災害時のマニュアルを整備し、非常食、飲料水も備蓄されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立と食事摂取量・水分摂取量は個人記録に記入し、栄養の偏りと脱水の予防に留意している。食事メニューの作成は同一法人の栄養士に依頼し、必要時、栄養に関する相談を受けている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると豊のベンチがあり、鉢植えや手作りの花と、離人形がさりげなく飾られている雰囲気の中にも、利用者の楽しげな日常の写真が飾られている。居間は自然の採光を活用し、程よい明るさで、ピアノが置かれ、季節の花が飾られ、金魚が飼育され、居心地の良い空間となっている。居間にはフロア以外に和室が設けられ、思い思いの場所で過ごすことができる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が普段から使用し、馴染んでいた家具や、思い出の仏壇、寝具等が持ち込まれており、利用者が安心して過ごせるための工夫がなされている。居室は洋室の他、畳の部屋があり、利用者の要望に対応している。		